

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492300163	事業の開始年月日	平成26年4月1日
		指定年月日	平成26年4月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき前川		
所在地	(256-0813) 神奈川県小田原市前川540-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様が少しでも楽しく自分らしく過ごして頂けるよう個々の対応に力をいれ月1回入居者様の様子をご家族様宛に新聞として発行しご家族様にもしっかき様子を報告しご家族様が安心して施設に親御様を預けてよかったですと思っただけの施設です。また地域との交流を大切にして懇談会に出席して地域とも交流を深めている施設です。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年12月4日	評価機関 評価決定日	令和7年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR東海道線「国府津」駅から神奈中バス、橘団地行きに乗車し「小学校前」バス停で下車、徒歩約5分ほどの国道1号線から山側に入った閑静な住宅地にあります。バス便の少ない時間帯はJR東海道線「国府津」駅または「二宮」駅北口からタクシーが利用できます。相模湾や箱根の山々を望む風光明媚な高台にある2階建ての建物です。

<優れている点>

「利用者様が自分らしく生活する為に自己決定できるよう支援します」を理念に掲げ、新人職員にも丁寧に指導して利用者が自分らしい生活を送れるよう支援しています。介護計画ではモニタリングを3ヶ月ごと、ケアプランを6ヶ月ごとに作成し、本人、家族の意向やかかりつけ医、看護師の意見をもとに毎月の職員会議で話し合っ作成しています。状況が変わった場合は随時変更しています。食事は毎食職員が調理し作り立ての食事を提供しています。誤嚥防止のため1日2回口腔体操を行い、車いすの位置や入居者の身体の傾きなどに留意して誤嚥にも気をつけ、本人が食べやすいよう支援しています。入居者の希望で麺類なども提供し、楽しく食事ができるように配慮しています。

<工夫点>

夜間BCP演習を実施し、広域避難場所の小学校まで職員が利用者役となって点検済車いす2台に乗車し坂道を昇り降りして訓練をしています。小田原市防災対策課と協定を結び、一時避難場所として備蓄を10日分配備するなど防災対策に力を入れています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。	管理者は理念の「利用者様が自分らしく生活する為に自己決定できるよう支援します」を新人職員にもわかるよう丁寧に説明し指導しています。利用者に強制をしないこと。良かれと思った事でも「〇〇しましょう」と声かけし、無理やりやらせることのないようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括センターと連携し、地域の方々と施設が主体となり毎週1回地域交流としてラジオ体操を：地域住民の方と行なっています。	コロナ禍のため外出出来ない期間があり、また屋外で実施していた地域のラジオ体操は、猛暑で熱中症の危険を避けるため中止していますが、再開したいと考えています。自治会長とも交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、施設の情報開示や報告を行なっています。 災害時には風水害避難所として地域住民の受け入れも行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取組みや実施状況を報告し施設運営に活かしています。	自治会々長や地域包括支援センター職員、建物オーナーなどの参加を得て隔月に開催しています。運営内容やヒヤリハットの報告、委員会活動、虐待・災害時BCPなどの内部研修を報告しています。参加者からの意見を日常の活動に活かしています。	対面で運営推進会議が実施されていますが、平日開催の為に入居者家族などの参加が出来ていません。年間で1、2回でも入居者家族が参加可能な日程調整が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	災害時の一時受け入れや：施設開放等の依頼や、生活保護者の受け入れ相談等について連携をしています。	小田原市生活支援課職員とは生活保護関連の入居者の関係で連携しています。グループホーム・小規模多機能連絡会では毎月グループホームの空室の情報を一斉発信し、入居希望者の便宜を図っています。風水害対策で小田原市と地域支援の協定を結んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を3か月に1回開催し事例検討等を例題にし研修を行っています。	法人主催の身体拘束・虐待防止委員会が3ヶ月ごとに開催され、事業所代表で管理者が委員として参加しています。事業所では年2回の職員研修の内、1回は法人から講師が来所し、3日間かけて法人作成のテキストを使用して研修を実施しています。職員の理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加し、施設内にて改めて研修会を開き情報共有し職員へ周知徹底しています。	座学の研修だけでなく、特に入浴介助などが未経験の新人職員に対して介護方法と併せてOJTで丁寧に指導しています。法人作成の「高齢者虐待・身体拘束自己チェックシート」を使って日頃の自身の介護の様子を振り返り、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースの場合は施設管理者が対応しその後職員へ周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には専門用語は使用せず誰にでも理解して頂けるよう時間を掛け丁寧に説明し、理解して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設管理者が定期的に入居者様の御家族に定期連絡し要望などをお聞きしその旨を職員へ申し送り等にて発信しています。	利用者本人のしたい、やりたいという意向を汲み取り、その思いを尊重した支援に努めています。家族とは面会での来所時や支援計画の見直しなどで連絡を取り、意見や要望を聞いています。散歩の支援など日常生活の要望への対応や介護保険証の代理人申請などの支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議や：定期の研修会を開催し職員の意見を聞く機会を設け業務に反映させています。	毎月職員ミーティングを実施しています。今年度は職員の構成が変わり、経験年数の浅い職員が多くなったため、管理者の真意をしっかりと伝えることに取り組んでいます。SNSなどのICTツールを使い、休暇の希望や職員の要望・意見を聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社管理職が代表に代わり施設訪問を行ない管理者以外の職員意見や職員個々の意見を施設管理者と状況把握に努めています。	法人部長が適宜来所して、管理者、職員の意向を把握しています。時間外に実施している会議や研修は残業扱いとしています。時間外労働は毎月10時間以下としています。報告書や申し送りの作業はタブレットを導入し、業務時間の短縮や効率化に繋がっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて定期的に介護技術研修等を行っています。	新人が入職した際は個人ごとに入職時研修を実施して指導しています。内部研修はテスト形式で実施し、就業中の手すきの時間でも職員が学べるよう工夫しています。毎日使用するタブレットの使い方は個別に実際に触れて指導し、応用操作は都度教えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入し地域の他施設の管理者との交流を施設管理者が行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて施設管理者が職員個々と面談をし個々の状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的に施設管理者が御家族に連絡をとり御家族の意見に耳を傾け相談の応じて問題解決しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受けてから状況把握に努め早急に問題解決を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様本人や御家族と共に悩み楽しい時も、悲しい時も家族のように支えています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え気持ちを分かち合える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の個々と向き合い、気持ちを尊重しお話ししやすい環境作りを行なっています。	家の近所に行きたいなどの要望に応じて、本人の自宅近くまでドライブしたり、長年蕎麦屋を営んでいた時の従業員が訪ねて来て、一緒に外食したりすることもあり、馴染みの関係の継続を支援しています。家族と出かけて外食し、お酒を飲み楽しむ利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様個々の特徴を把握し、食席やレクリエーション時など個々に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もやり取りを行ない現状の様子などを聞き関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月に1回入居者個々のアセスメント、モニタリングを行ない入居者個々の状態把握に努めています。	利用者の思いは日々のケアの場面で聞き取っています。「眼鏡を作りたいので施設長さんに伝えてください」と伝言がある場合もあります。認知症の症状による暴言・暴力など支援方法に苦慮したケースでは、家族と粘り強く話し合っ、精神科受診に繋げ、改善された事例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の面談にて過去の生活歴を把握し、御家族や親族から情報提供をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにて生活歴、既往歴を把握し個々のケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子をケアスタッフに情報提供を求め担当者会議にてケア方法を検討し介護計画書作成に活かしています。	入居時は情報シートや実態調査で得られた情報をもとに1ヶ月間暫定ケアプランを作成します。本プランは本人、家族の意向やかかりつけ医、看護師の意見をもとに毎月の職員会議で話し合って作成しています。モニタリングは3ヶ月ごと、ケアプランは6ヶ月ごとですが、状況が変わった場合は随時変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者会議にてケア方法を定め介護計画書を作成し実施して頂き生活記録に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者個々の様子観察を行ない状況に応じた対応をご家族に提案し対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態に合った事を積極的にとりいれるよう支援していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携をはかり必要に応じて御家族を交え相談を行ない、外部受診必要性や受診へのサポートを行なっています。	希望のかかりつけ医を選択できます。現在は全員が事業所の嘱託医をかかりつけ医とし、月2回訪問診療があります。訪問前日に管理者がfaxで状態や薬の状況を伝えています。家族支援で精神科などの受診の際は日々の様子を事前に伝え、受診後は医師からSNSやメールをもらい連絡連携しています。希望者は訪問歯科も受けられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問診療との連携をはかって支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有にて話し合いを行ない状態把握に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に御家族に意向を伺い急変時や状態低下に伴い重度化の指針の説明や看取り介護についての同意書の説明を行ない同意を得ています。	入居時に「ターミナルケアの心得」に沿って説明し、同意書を交わしています。重度化した場合は医師、家族、施設長で話し合い、方針を決めています。看取りの実績があります。緊急搬送を希望する人も多くなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急時のマニュアルに従い周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法律で定められた年2回の消防訓練を行なうなどし、また今後は事業継続計画：実践指示書に沿い避難訓練等行なっていきたいです。	9月に利用者と職員が参加して総合訓練を実施しています。11月には夜間BCP演習を実施し、職員が利用者役となって広域避難場所の小学校まで防災頭巾を被り点検済車いす2台に乗車して下の国道まで坂道を昇り降りしています。市防災対策課と協定を結び、事業所を一時避難場所として備蓄を10日分配備するなど防災対策に力を入れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の尊厳に配慮しての言葉掛けを行なっています。	入職時に接遇マナー研修を実施し、必要に応じて管理者が随時職員会議の中で研修をしています。居室に入る際はノックと声かけを習慣にしています。着替えやおむつ交換は扉を必ず閉める、失禁の際もさりげなく誘導するなどプライバシー保持に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者個々が主張できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々に強要することはせず自身のペースで生活して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思にて選んでいただき自身で行えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみメニューを取り入れたり食事レクリエーションを行ったりし食を楽しんでいただいております。	業者から届いた食材を調理して提供しています。誤嚥防止のため1日2回の口腔体操を行い、食具も工夫しています。食事中はテレビを消しています。下膳や食器洗いをする人もいます。ラーメンなどのリクエストに応えたり、プリンやシュークリームを提供して喜ばれています。誕生日ケーキやおやつの手作りホットケーキは好評です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合った食形態の提供や1日の食事量、水分量の把握し個々の健康状態の維持を行ない栄養バランスのよい食事提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施を自身で行えるという支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態に合わせた排泄方法をとり支援しています。	排泄はケアカルテで居室、トイレ、パット、リハビリパンツ交換、排便の形状や排泄状況の表示を共有し、排便がない場合は医師の処方薬を飲ませています。布パンツを併用している人もいます。一人ひとりの排泄パターンに沿った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内の運動量は少ない為、近くへの散歩実施などを行ない腸の動きを少しでも良く出来ればと思行なっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	大きな施設と違いゆったりとした時間を設け個々に合わせた入浴の支援を行っています。	週2回会話をしながら楽しく入浴しています。寒い時期は脱衣室や浴室を暖め、入浴後は保湿クリームを塗っています。2人介助で支援する人もいます。拒否の場合は無理強いせず清拭を行うこともあります。失禁などの場合はシャワーをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々の身体状況に合わせ個々の気持ちを尊重した休息：安眠できるような支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	声掛けにて意思を尊重し服薬管理します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自身にて出来ることを自身にて行なえるよう支援し、職員のお手伝いを積極的に声掛けにて行って頂くなど活動の幅を広げられ日々少しでも充実した生活がおくれるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクリエーションの実施を積極的に行なうのと、日々近隣への散歩の実施や地域の方々とのラジオ体操に参加するよう支援しています。	以前は事業所駐車場で地域の人とラジオ体操を実施していましたが、現在は事業所内で午前と午後に行っています。毎日20～30分廊下の散歩を日課にしている利用者がいます。家族と外食のため外出する人もいます。外出支援は再開したいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は行なっていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙に関しては返信のお手伝いをさせて頂いたりし、また電話に関しては個々で携帯電話を利用していただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるような空間に装飾などを一緒に制作したりしています。	共有空間に見守りカメラを設置し、事故防止に努めています。毎週玄関に生花を活けており、事業所内は掃除が行き届き、リビングは法人購入の新型コロナウイルス感染対策の除圧装置の備えがあります。テレビやソファ、加湿空気清浄器、クリスマスなどの季節の飾りがあります。カーテンの開閉は利用者が行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にては個々が自由に移動して自身の意思を尊重しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は個々の好みにより置物や掲示物など自由な空間にして頂いています	エアコン、照明、カーテン、介護ベッドを設置しています。事故防止のため低床ベッドも導入しています。職員が毎日清掃しています。テレビやぬいぐるみ、思い出の写真など馴染みの品を持参しています。施錠して一人で過ごしたり、家族に電話をする人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々ができることを意思を尊重し少数の施設のメリットを活かし行なっております。		

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括センターと連携し、地域の方々と施設が主体となり毎週1回地域交流としてラジオ体操を：地域住民の方と行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、施設の情報開示や報告を行なっています。 災害時には風水害避難所として地域住民の受け入れも行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取組みや実施状況を報告し施設運営に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	災害時の一時受け入れや：施設開放等の依頼や、生活保護者の受け入れ相談等について連携をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を3か月に1回開催し事例検討等を例題にし研修を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加し、施設内にて改めて研修会を開き情報共有し職員へ周知徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースの場合は施設管理者が対応しその後職員へ周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には専門用語は使用せず誰にでも理解して頂けるよう時間を掛け丁寧に説明し、理解して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設管理者が定期的に入居者様の御家族に定期連絡し要望などをお聞きしその旨を職員へ申し送り等にて発信しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議や：定期の研修会を開催し職員の意見を聞く機会を設け業務に反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社管理職が代表に代わり施設訪問を行ない管理者以外の職員意見や職員個々の意見を施設管理者と状況把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて定期的に介護技術研修等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入し地域の他施設の管理者との交流を施設管理者が行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて施設管理者が職員個々と面談をし個々の状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的に施設管理者が御家族に連絡をとり御家族の意見に耳を傾け相談の応じて問題解決しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受けてから状況把握に努め早急に問題解決を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様本人や御家族と共に悩み楽しい時も、悲しい時も家族のように支えています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え気持ちを分かち合える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の個々と向き合い、気持ちを尊重しお話しやすい環境作りを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様個々の特徴を把握し、食席やレクリエーション時など個々に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もやり取りを行ない現状の様子などを聞き関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月に1回入居者個々のアセスメント、モニタリングを行ない入居者個々の状態把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の面談にて過去の生活歴を把握し、御家族や親族から情報提供をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにて生活歴、既往歴を把握し個々のケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子をケアスタッフに情報提供を求め担当者会議にてケア方法を検討し介護計画書作成に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者会議にてケア方法を定め介護計画書を作成し実施して頂き生活記録に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者個々の様子観察を行ない状況に応じた対応をご家族に提案し対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態に合った事を積極的にとり入れるよう支援していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携をはかり必要に応じて御家族を交え相談を行ない、外部受診必要性や受診へのサポートを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問診療との連携をはかって支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有にて話し合いを行ない状態把握に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に御家族に意向を伺い急変時や状態低下に伴い重度化の指針の説明や看取り介護についての同意書の説明を行ない同意を得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急時のマニュアルに従い周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法律で定められた年2回の消防訓練を行なうなどし、また今後は事業継続計画：実践指示書に沿い避難訓練等行なっていきたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の尊厳に配慮しての言葉掛けを行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者個々が主張できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々に強要することはせず自身のペースで生活して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思にて選んでいただき自身で行えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみメニューを取り入れたり食事レクリエーションを行ったりし食を楽しんでいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合った食形態の提供や1日の食事量、水分量の把握し個々の健康状態の維持を行ない栄養バランスのよい食事提供に努めます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施を自身で行えるという支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態に合わせた排泄方法を取り支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内の運動量は少ない為、近くへの散歩実施などを行ない腸の動きを少しでも良く出来ればと思行なっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	大きな施設と違いゆったりとした時間を設け個々に合わせた入浴の支援を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々の身体状況に合わせ個々の気持ちを尊重した休息：安眠できるような支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	声掛けにて意思を尊重し服薬管理します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自身にて出来ることを自身にて行なえるよう支援し、職員のお手伝いを積極的に声掛けにて行って頂くなど活動の幅を広げられ日々少しでも充実した生活がおくれるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクリエーションの実施を積極的に行なうのと、日々近隣への散歩の実施や地域の方々とのラジオ体操に参加するよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は行なっていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙に関しては返信のお手伝いをさせて頂いたりし、また電話に関しては個々で携帯電話を利用していただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるような空間に装飾などを一緒に制作したりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にては個々が自由に移動して自身の意思を尊重しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は個々の好みにより置物や掲示物など自由な空間にして頂いています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々ができることを意思を尊重し少人数の施設のメリットを活かし行なって頂いています。		

2024年度

事業所名 グループホームみさき前川
 作成日： 令和7 年 3月 7日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組み	施設内にて定期的に研修や勉強会を実施していく。	研修の内容は統一し、職員の個々のレベルに合わせたメンバーにしグループワークにて勉強会や研修を行ない職員のレベルの底上げを行なう。	12ヶ月
2	26	チームで作る介護計画とモニタリング	日々の入居者様の様子やケア方法を各階にて定期的にカンファレンスを行ない実施状況や問題点を上げ介護計画に盛り込み実施していく	介護計画に沿い実施状況を昼夜共に記録してメンバー全員に周知徹底し実施状況を全員で把握しが質の良い個別のケアに対応できるよう管理者の指導のもと行なっていく。	12ヶ月
3	6	虐待の防止の徹底	座学の研修だけでなく入社時や研修時に自己チェックシートを使用し日頃の介護の様子を振り返りチェックシートに記入していただき防止に努めています	全職員にて実際の入居者様等を対象にして介護技術演習などを行ない研修を行なうなどすると同時に法人作成の高齢者虐待・身体拘束自己チェックシートを使用し虐待防止に努めています	12ヶ月
4	3	運営推進会議を活かした取り組み	自治会との合同で防災訓練を実施	自治会との合同にて施設側で行なっているBCP（災害時事業継続計画）の野外での演習訓練を合同で行なう。	12ヶ月
5	3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の開催時に自治会長、地域包括支援センター職員、建物オーナーなどの参加の他のご家族が参加できるように声掛けし日程調整を行なう	御家族の参加を促し運営推進会議の場を借りて施設と地域との関係や家族の方からのご意見や要望をお聞きして開かれた施設運営を行なっていく。	12ヶ月